

会社名 宇部興産株式会社
 代表者名 取締役会長兼社長 常見和正
 (コード番号 4208 東証第1部)
 問合せ先 IR広報部長 泉原雅人
 (TEL 03-5419-6110)

業績予想の修正に関するお知らせ

平成 16 年 5 月 14 日に公表しました平成 17 年 3 月期中間業績予想(平成 16 年 4 月 1 日～平成 16 年 9 月 30 日)を下記の通り修正いたします。

記

1. 平成 17 年 3 月期中間連結業績予想数値の修正(平成 16 年 4 月 1 日～平成 16 年 9 月 30 日)

(単位: 億円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A) (平成 16 年 5 月 14 日発表)	2,640	50	△ 15	△ 10
今回修正予想(B)	2,710	90	30	5
増減額(B-A)	70	40	45	15
増減率	2.7	80.0	—	—
前期(平成 16 年 3 月期中間)実績	2,422	51	15	6

2. 平成 17 年 3 月期中間単独業績予想数値の修正(平成 16 年 4 月 1 日～平成 16 年 9 月 30 日)

(単位: 億円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A) (平成 16 年 5 月 14 日発表)	1,180	30	0	0
今回修正予想(B)	1,223	74	62	47
増減額(B-A)	43	44	62	47
増減率	3.6	146.7	—	—
前期(平成 16 年 3 月期中間)実績	1,081	40	23	7

3. 修正の理由

(1) 連結

- 売上高につきましては、カプロラクタム、ポリエチレン・合成ゴム、機能品・ファイン製品等の売上が好調であったことにより、70億円の増収になる見込みです。
- 営業利益につきましては、ナフサ・ベンゼン等、化学関係の原料価格が著しく高騰したこと、並びに北米アルミホイール事業の回復が計画を下回ったことによる減益要因がありましたが、機能性材料、医薬原体・中間体の出荷が好調だったこと、また原料価格高騰については製品価格にかなりの部分転嫁できたこと、更には建設資材部門における原価低減努力等により、減益要因をカバーし、40億円の増益になる見込みです。
- 経常利益につきましては、上記営業利益の増加により45億円の増益になる見込みです。
- 中間純利益につきましては、北米アルミホイール事業会社において、税効果会計の適用されない損失が増加したこと等により、15億円の増益にとどまる見込みです。

(2) 単独

- 売上高につきましては、カプロラクタム、ポリエチレン・合成ゴム、機能品・ファイン製品等の売上が好調であったことにより、43億円の増収になる見込みです。
- 営業利益につきましては、ナフサ・ベンゼン等、化学関係の原料価格の著しい高騰による減益要因がありましたが、機能性材料、医薬原体・中間体の出荷が好調だったこと、また原料価格高騰については製品価格にかなりの部分転嫁できたこと、更には建設資材部門における原価低減努力等により、44億円の増益となる見込みです。
- 経常利益につきましては、上記に加え、支払利息等金融収支が改善したこと等により、営業利益の増加を上回る62億円の増益となる見込みです。
- 中間純利益につきましては、上記に伴い、47億円の増益となる見込みです。

(参考) 通期連結及び単独業績予想

上記の通り、中間期の連結及び単独の業績につきましては前回予想を上回る見込みですが、通期の業績予想につきましては、北米アルミホイール事業の回復状況や今後の原燃料価格の推移、デジタル家電景気の動向など、依然不透明な要素も多いため、これらの影響を更に見極めた段階で、改めて発表を行なう予定です。

※上記の予想は、当社が現時点で入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があることをご承知願います。

以 上